



TITLE:

雑報・支部通信

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報・支部通信. 天界 1923, 3(34): 348-348

ISSUE DATE:

1923-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159977>

RIGHT:

日	赤経	赤緯	流星數	一時間平均
11	46°	+55°	16	7
12	48	+53	38	11
13	45	+55	7	5
16	54	+53	6	2

デニング氏の表より輻射點は南にある。輻射點は一點にあらずして約6度の直径を有し特有の流星を輻射する。

一時間平均数は甚だ少なすぎる。一時間に認め得る流星は12日早朝には少なくとも40以上を推算した。

0等以上の大流星

時	日	時	分	出現點	消失點	等級	繼續時	群	觀測者
11	午前	2	31	359° +66°	298° +56	0	0.8秒	ペルセウス	中村
12		0	33	70 +41	75 +34	-1	0.5	ペルセウス	中村
同		0	51	20 +56	358 +55	0	0.5	ペルセウス	中村
同		1	07	15 +47	2.5 +39	-1	0.6	ペルセウス	池田中村
同		1	16	50 +51	52 +49	-0	0.6	ペルセウス	池田中村
同		1	18	63 +62	5 +88	-1	—	?	池田
同		1	38	80 +5	98 +68	-2	0.8	ペルセウス	池田中村
同		1	48	75 +66	97 +69	0	1.0	ペルセウス	中村
同		1	50	—	—	-1	—	?	池田
同		1	55	44 +49	41 +39	-0.5	0.4	ペルセウス	池田
同		2	28	359 +15	350 -17	0	0.6	ペルセウス	山本
同		3	21	9 +41	31 +35	-1	0.3	不明	樫原
13		3	13	8 +30	339 +10	0.5	1.2	ペルセウス?	樫原

例年のペルセウス群として金星大の火球のなかつた事や流星數から見ても比較的淋しい流星雨であつた。極大は明らかに十二日早朝に起つたが13日11日此れに次ぐものであつた。

ペルセウス群以外副産物として得た群は魚座β群347°+3°で七箇の流星が観測されて居る。

観測部の最初の流星観測であつたが豫想以上の好成績であつた。次の試みには多數の會員諸氏の加はられん事を望む。

### アルゼンチン國立天文臺の六十吋反射望遠鏡

米國のアーナースエジャー會社はペライン氏の臺長たるアルゼンチン國立天文臺の爲に60吋反射望遠鏡を完成せり。

大鏡は口径61吋ありて厚みは中央にて七時半にて重量は2000ポンドあり。焦點距離は24呎6吋あり即ち F 4.8にてウイリソン山六十吋と殆んど同等なり。ニュートン式として使用する小鏡は楕圓にて短徑12吋あり。

カセグレイン式として使用する小鏡は二個ありて何れも直径16吋半にて合成焦點距各68呎及び112呎あり。後者はカセグレインクーデとして使用せらる。

光學部分は總て有名なるブラシアー會社製なり。

マウンティングはウイリソン山六十吋と似たるフオーク型にて附屬設備は完全なり。筒はフレームにあらずして通常の屈折鏡と同様なり。南半球最大の反射鏡なるを以て此の有力なる器械により幾多の新事實が発見されるを信す。

### ○岡山支部七月通信

一。天界研究會 第二土曜日(十四日)午後七時から宮原幹事宅にて開催した。

二。家庭宣傳 水野幹事は左記の通り家庭宣傳を行つた。

二十四日 川村大佐宅

二十八日 石倉少佐宅

二十九日。三十日 土屋少佐宅

三十一日 佐々木少佐宅